

第 2 号

平成20年 6月28日

明治大学校友会
船橋地域支部会報

編集：編集委員会
鈴木英男
大内善一

事務局：船橋市東船橋 5-13-22
電話・FAX：047-423-4568



Meiji
University Uni

暁の鐘 ふなばし

明治大学全国校友広島大会に参加して
支部長 堀越好夫

平成十九年十一月三・四日広島市リガーロイヤルホテルに於いて開催されました。三日は午後三時より支部長・地域支部長会議が行われ青木会長・村山元総理・長吉理事長・納谷学長の挨拶に続いて水戸川広島県支部長の歓迎の言葉があり、新加入支部に地域支部旗授与があり、流山地域支部も旗を頂いて正式に西武支部の一員となりました。

議事は募金期間延長と募金推進会議開催を決め、報告事項に入り終身会費納入についてから第十回ホームカミングデー、その他まだ八件の報告がありました。

次いで長吉理事長の大学事務機構改革の講演があつて会議が終了。呉越同舟やかな前夜祭で一日目が終わりました。

二日目は全国から一三〇〇人の



校友が広島リガーロイヤルホテルに集まり午後一時から水戸川大会実行委員長の歓迎の挨拶・青木校友会会長・村山名誉会長・長吉理事長・納谷学長の挨拶があり地元城納広島県副知事、秋葉広島市長、明大連合父母会西井会長及び次年度全国校友大会実行委員長蒔苗秋田県支部長の祝辞があり、長吉理事長・青木会長の万歳三唱でセレモニーが終わり、役員来賓が降壇次に三遊亭小遊三師匠の会場爆笑のユーモア・たつぷりの講演の後広島県の伝統文化石見神楽を山王神楽団が伝説の八岐大蛇を演じてくれ、八色の蛇の踊り尊の剣裁き、演壇一杯に緑り広げられた絵巻は参加者を魅了させてくれました。

午後四時半から懇親会、会場を埋めた校友はそれぞれに分かれ歓談は時間を忘れ名残尽きなく最後にオー明治の校歌を斉唱、来年秋田で再会を期して終わりました。

明治大学「教育振興協力資金」

「寄付のお願い」

校友会の活動拠点として校友会館「紫紺館」が建設されました。この建設資金の一部十億円を全国の校友会員で負担することで募金を行っておりますが、未だ目標額に達しておりません。

是非ご協力をお願いいたします。

支部長 堀越好夫

船橋地域支部 平成19年度の主な事業活動概要

「19年度定時総会」

19年6月3日

東魁楼 本館4階にて開催



「暑気払い」8月4日 東魁楼

「忘年会」12月8日 なべや

「親睦ゴルフ会」10月4日

場所・久能カントリー(成田)

参加者4名 幹事・穴澤豊治氏

「ラグビー観戦」12月2日

参加者13名

「サークル活動」資産運用研究会

5月26日・9月8日・10月27日

『特別研究会講師 折戸正春氏・明大卒

による「相場展望」一般会員も参加』

1月26日(例会)・勤労市民センター



「同心協力」「大衆共同」

会員 加藤 隆

標題は、「明治法律学校設立ノ趣旨」（明治十四年一月）に見るキーワードである。しばし創立者の心情に思いを馳せてみよう。



周知のように、母校明治の創立者は岸本辰雄・宮城浩蔵・矢代操の三氏である。岸本は鳥取藩、宮城は天童藩、矢代は鯖江藩、いずれも小藩の下級武士出身であり、ともに藩貢進生として大学南校

司法省明治寮に学んだ同期生であり、岸本・宮城は選ばれてパリ大学に留学している。

彼らは司法官として勤務する傍ら、法律学校創立を計画。明治十三年末に東京府へ上申し、翌年早々

前掲の「趣旨」を広告、開講した。明治法律学校（明治大学）の始まりである。

その意図は、「邦国ノ榮譽人類ノ命脈」に係わる法学が、ややもすれば「健訴ノ具」と化しつつあることを憂い、「法理ヲ講究シ其真諦ヲ拡張」するところにある。

時に岸本三〇歳、宮城・矢代は二九歳、いまだ青年の域にあった。

これに比し、慶応の創立者福沢早稲田の大隈は当時四〇代半ばにあり、すでに思想界・政界で名声を博している。岸本・宮城・矢代は、はるかにこれに及ぶべくもなかった。

にも拘わらず、彼らがこれに伍して法律学校を創立しえた理由は何か。一つには、彼らが「趣旨」において「同心協力」「大衆共同」を熱く訴えたことが挙げられよう。いま一つ、この訴えに学生・校友が、ここでいうところの大衆であるが、大いに応えたことを忘れてはならない。この絆こそ、他私学に類を見ない母校明治の創立期における特質なのである。



市立リハビリテーション病院 オープン 四月二十一日

会員 船橋市環境部長
小山 澤夫
（前医療センター事務局長）

市立リハビリテーション病院が四月二十一日オープンしました。この病院は、他の病院で脳血管疾患（脳梗塞や脳出血等）や骨折などの治療を受けた後に、身体機能の回復・改善のためのリハビリを専門に行う病院です。

後遺障害の軽減や寝たきりの防止などを目的に、患者さんを早期に受け入れ、集中的なりハビリを行います。患者の皆さんが一日でも早く、住み慣れた地域や自宅において、自分の力だけで生活できるようになることを目標としています。また、市では、医療センターや市医師会などと連携して、急性期から維持期までの「地域リハビリテーション」のシステムづくりを進めています。

病床数は二〇〇床で

医療スタッフも充実

同病院は、医療センター西側に位置し、初年度の病床数は六八床順次増床し、二十二年度には二〇〇床となる全国的にも最大規模の専門病院です。看護師や理学療法士などの医療スタッフも基準より多く配置して、患者さんや家族をサポートします。

入院や通院ができる人は？

入院の対象者は、入院先の病院から紹介がある、脳血管疾患、脊髄損傷、大腿骨骨折等の発症後、所定の期間内の人などです。

外来を受診できるのは、他の病院や診療所から紹介された人、同院を退院された人などです。

病院の運営は民間

市では、病院の運営を行う指定管理者を公募し、回復期リハビリテーションで高い評価を受けている、医療法人社団輝生会（きせい）を選定しました。同会の初台にある病院で元巨人軍監督長島茂雄氏がリハビリを受けたことでも有名です。





尊縁・宮田輝 OBTとチベット

昭和三十三年文学部卒

体育会テニスサークル部長 B会長

大内善一

縁あって、明大 BでNHK名アナウサー宮田輝さん（一九二一・一一・二五）一九九〇・七・十五）が昭和四九年春NHKを退職され、七月投票が行われる、参議院全国区に自民党から立候補された時、当時の自民党鈴木善幸総務会長から要請され、選挙事務を取捌き、たった三ヶ月の運動でトップ当選を果たすことができた、感激の想い出がある。

その宮田輝夫人恵美さんの叔父河口慧海師は、高名な仏教家で、一八八六・二・二六〜一九四五・二・二四 当時鎖国であったチベットに、明治三三年インド、ネパールでチベット語を学び、ヒマラヤの山を越えて、日本人として初めて密入国し、ラサの北にある大僧院セラ寺で修行し、インド仏典の原形をとどめている、チベット語訳の大蔵経、梵語仏典等貴重な資

料を収集し、日本に持ち帰り、その後もう一度入境し、『西藏旅行記』を出版し、英訳までもされ世界を驚かせたことが語り継がれている。
その河口慧海師の姪である宮田恵美さんから、河口慧海師の書いた日記が数年前発見され、その日記に基づき日本山岳会の関西の方々、たずね歩き、昨年五月講談社学術文庫より、『河口慧海日記―ヒマラヤ・チベットの旅』として出版された。



昨年八月十九日、チベット最大規模の僧院デブン寺の、夏祭りシュトン祭にたった一日早朝日の出に併せ開催される「大タンカ御開帳」参拝に行く折、宮田恵美さんから、その『河口慧海日記』を、慧海師が修行したラサ寺に納本することを依頼され、ラサ寺の阿旺洛珠大僧正にお目にかかり、親しく納本させていただき、記念に同寺の御朱印入りの夕力を賜る光栄に浴す

る思いがけないことができた。
そのラサ寺が、今回のチベット騒動で、四百余人の僧侶が拘束されたとの報をきき、また今回の大地震でどうなったのか、併せて心を痛めているところである。
帰りはラサより西寧まで二十六時間、世界最高のところを走る高山列車での想い出がよみがえっているところである。

アンデルセン公園

ガイドボランティアに参加して

鹿沼 元治 三八商卒

平成15年5月に63年間住み慣れた外神田の家を息子一家にバトンタッチし、家内と二人で船橋に転居してきました。

船橋市民となつて地元で早く馴染もうと思ひ、市や公民館、町のイベントに積極的に参加するよう心懸けてきたところ、昨年四月の広報で七〇周年の記念行事として催される「第二十四回全国都市緑化ふなばしフェア」の市民ガイドボランティア募集の広告を見つけました。十月二日から十一月四日まで挙行されたうちのわずか四日だけでしたが、アンデルセン公園の施設を案内する役目を担いました。入場者数は市の発表によると当初十万人を目標としていたところが二十万人を超えた盛況で大成功だったと報じられていました。

秋篠宮殿下、同妃殿下の記念植樹、各種催物などが行われ、天候にも恵まれ、お年寄りから若者までが多数参加されました。

過日、市の公園協会から手紙が来て、本年四月から始まるボランティア活動への継続参加を打診してきましたので、OKの返事を出しました。明大校友会船橋があるのを知ったのは、フェイス五階にある掲示板です。

市民になつてからこの四年間に地元の将棋サークル、公民館の催す房総の山歩きやオカリナ、社交ダンスなどにも参加し、友人もだいぶ増えました

今六十才から勤めだしたマンションの管理会社に在籍して休日は日曜ぐらいしかありませんが、これからも進んで地元のお手伝いをさせて頂きたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



イヤーそれにしても、歴史的、記録的大敗でしたね、7対71とは。伝統的名勝負を繰り広げて来た早明ラグビー定期戦であるが、今年は勝負になったのは、80分間の内、立ち上がり20分間位で後はノーガードで打たれ放しに近い状態。7点を先制しただけに余計 落差が目立つ。今期これ迄5勝1分と一応無敗で来ていたので、対抗戦49連勝中のワセダとは言え、好ゲームをしてくれるのではと、明治ファンならずとも期待していた筈。後半40分は、選手諸君、ベンチも守勢一方の展開で、焦り、疲労から集中力欠如、戦意喪失とリザーブ投入のタイミングも逸した感じで、一方的な試合になってしまったのはラグビーではよく起こる現象ではあります。

例年、強いチームと言うのは、シーズンの深まりと共に、戦力が整備、強化されて充実して来るのだが、二〇〇〇年代に入った明大ラグビーは、なかなか波に乗れない。今期、無敗でクライマックスを迎えたとは言え、11月に入ってからの慶応、筑波戦は、序盤、大量リードするもディフェンスの甘さ、スタミナ切れ等で、引分、3点差の辛勝と戦力ダウン、ほころ

びが見えて来ていた。

今年で対ワセダ戦8連敗、これは私の現役時代も入った昭和37年(昭51年に掛けての14連敗(1分を挟む)に次ぐワースト記録。通算では、34勝47敗2分、ちなみに84回を数える早慶戦は、60勝19敗5分とワセダが圧倒。マー慶応に比べれば、拮抗した勝負をしており、何よりも正反對のチームカラーの激突が、早慶戦より人気を呼んでいる所以とも言える。

昨年藤田ヘッドコーチのもと、原点に戻つてのフォアードの強化、ひたすら一歩前への愚直な前進(あまり好きな言葉ではないが、これが創部以来続くメイジのシンボル、人気の源でもあるのだから仕様がなない!)と、ある程度の成果は出て来ている。タレント揃いでチョット隙のないワセダの牙城を崩すのは容易ではなく、まだまだトンネルは続きそうだが「ローマは一日にして成らず」着実に取組んで行つてもらいたい。

ところで、大学のスポーツで、競技場を満杯にできるのは、3K(キケン、キツイ、キタナイ)と敬遠する人もいるが、ラグビーであります。中でも毎年12月第1日曜日開催される早明戦は人気絶大、10年程度の一時期は、八ガキ申込みの抽選と云う年が続いた程のゴールデンカードなのである。この所明治の低迷で多少人気は

落ちたが、常に4万を越える大観衆なのである。一般観客席は敵味方相乱れ、そこ、ここから湧き上がる地鳴りのような大喚声、どよめき、ため息、果てしない怒号と、やつがれの老人性シビレも加わつて、興奮のつぼの中に引き込まれて行き、年令を超越した、青春の息吹、ノスタルジーがひしひしと迫つて来る感じがしますナ！周囲を見廻しても、中高年者も結構いるし、美女(昔の方も入れて)もチラホラ見受けられます。少しでも興味のある人は、早明戦3回しか観戦していない当方が言う資格はありませんが、一度は足を運んで見る価値はあるとおもいますよ。



と云うような訳で私めも、このスバラシイ臨場感を追い駆けて、勝敗なんぞ2の次、3の次、残り少ない人生でもあり、老骨にムチ打つて、来年も国立競技場に突進するゾ！ オ、オ、メイジ

東京六大学野球で明治が八季振り(早大は四連覇逃す)

5月28日の新聞に接し、四十七年振りに当時の熱き思いが蘇つた。

まずはお目出度うございます

先般 校友会船橋地域支部の集まりに参加し、色々な交流活動が行われていると知りました。船橋には公的施設で種々な一般に開放されている所があります。この時に提案しましたが、船橋県民の森の中に「さざんかの家」という古民家が無料で使用(宿泊可)出来ますので、交遊並びに家族を含めた親睦等に利用したらいかがでしょうか。近くにはアンデルセン公園、キャンプ村等が隣接し、緑豊かな芝生道もあります。これからの活動に利用されれば良いかご紹介いたしたいと思えます。



編集後記 この度は多くの寄稿を頂き有難うございました。満筆のため奇跡出来なかつた皆様には次年度お願いしたいと考えております。編集委員会